

# 分離独立の基点・津山大会での反動方針

## 5年間全般の闘い⑧

# 日刊 動労千葉

83. 10. 19

No. 1471

### 国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

## 座談会

### 三里塚ジェット闘争の5年間を振り返って

\*\*\*\*\*

動労千葉第八回定期大会は、「三里塚・国鉄を基軸に闘う労働運動路線」を確立し大成功をかちとりました。  
教宣部では、この大会において「五年間の三里塚・ジェット闘争」を総括し、この路線のもとでさらなる飛躍をかちとる立場から座談会を開催してきました。すでに「分離独立の闘い」「ジェット燃料貨車輸送阻止の闘い」については本紙上に掲載しましたが、最後の「五年間全般の闘い」をテーマに行なった座談会の要旨を紹介します。

\*\*\*\*\*

出席者	支部	職名	年齢
Q	津田沼	電運士	四一才
R	〃	〃	三七才
S	〃	〃	二四才
T	幕張	車検長	五五才
U	〃	構運係	三九才
V	〃	車修係	二六才
W	千葉転	電運士	四九才
X	〃	〃	三九才
Y	〃	〃	二六才

（司会）

8・8のバイプライン供用開始をもってジェット燃料の貨車輸送が終了、いよいよ新たな闘いに入るわけですが、「八〇年代に通用する自前の労働運動」を確立するために、「三里塚・国鉄を基軸に闘う労働運動」の飛躍的強化・発展が問われています。その意味からも五年間の「三里塚・ジェット闘争」について振り返ってみる必要があると思います。

まず「分離独立」の基点ともなった一九七八年の津山大会の問題点について出してください。

津山大会は路線をめぐる対立だった

（Wさん）

すべての大会は発言したい人が自由に発言して議論をかわすということではなければならぬはずが、津山大会では発言させずに数で押しきったんです。私は津山へ行っただけで、会場内で暴力問題が発生して退場した。あの時点からこうなる（分離独立）のはわかってましたね。

（Xさん）

振り返ると路線をめぐる対立だったと思います。現在を見れば、彼らの誤った路線が明らかになっていると思います。三里塚と一線を画したことが、動労「本部」が今日国鉄問題を含めて企業防衛主義にたっている端緒となったし、自分の組織だけを



反対同盟（故）戸村委員長とともに「三里塚と一線を画す」決定を弾劾する根こそぎ決起の動労千葉組合員。  
（第101定中委、1978年11月15日～17日、専売会館）

守るためにタコソポに入ることだったんだなと思います。  
（Vさん）  
津山大会は国鉄に入って二年目の時でした。実際に動労千葉が「本部」に暴力をふるわれるのを見たのは、春の総評青年協の集会の時で、青年部役員がひきずりまわされたりこずかれたりして、なんで同じ組合の中でやるのかと感じました。でも動労千葉が三里塚を闘い現地集会に行くと圧倒的拍手で迎えられるのを見て、正しいことをやっているんだなと肌では感じていました。津山大会に行きましたが、傍聴席を取り囲みボールペンで突いたりするのを見て、奴等に負けたくないという気持ちが生まりましたね。  
（Tさん）  
高松、仙台大会へ行っただけで暴力の繰り返したたな。水上、津山大会と、結局「本部」の意向に反する地本を抹殺してまでセクトの意向を通すということ、どんどん排除の方向でやってきたから千葉としても分裂はやむを得なかったんじゃないかね。  
（以下つづく）